

全教育活動を通して育むキャリア諸能力

～将来の生き方につながる学習をめざして～

教科・領域

全教科・全領域

防府市立小野中全学年

キャリア教育の観点

進路学習や地域学習、職場体験、修学旅行における自主研修等と合わせて、普段の授業や学校行事等においてもキャリア諸能力の育成につながる場面を分析し、実践していこうとする取組です。

【人間関係形成・社会形成能力】 【自己理解・自己管理能力】 【課題対応能力】 【キャリアプランニング能力】

平成 25 年度本校におけるキャリア教育の基本的考え方

本来、授業を含めた教育活動は、生徒が社会で生きる力につながっているものである。今年度、本校ではその原点に今一度立ち返ることを申し合わせている。つまり、特別な授業や活動を仕組んでいくのではなく、各教科・領域等における学習内容や生徒の活動が、キャリア諸能力の獲得にどうつながっていくのかを、全教職員で見直し、実践しようということである。例えば、国語科における言語能力の形成は、他者との意思の疎通を図るという社会生活を送る上での基本である。また、社会科においては資料活用能力の形成、数学科・理科における情報処理能力や思考力の形成、英語科で培うコミュニケーション能力や異文化理解、音楽科・美術科で培われる自己表現力、保健体育科では基礎体力や巧緻性、集団形成能力が培われることが期待できる。さらに、技術・家庭科ではものづくりや生産活動を通じて、自己理解を進め、望ましい職業観を培うことができる。また、道徳・学級活動は社会性や集団形成能力を育てる場面として重要な時間である。

こうした授業等で培われる力を今一度見直し、生徒が将来を生きる力として身に付けていくことを意識して授業改善を行っている。

研究主題との関連

平成 25 年度研究主題

『確かな学力を育成する授業づくり』
～ともに学び、伸びあう生徒をめざして～

本校の研究主題にも掲げてある『確かな学力』とは、生徒が将来にわたって主体的に生きる、自己実現のための基礎的・基本的な力のことである。

平成 24 年度までの 3 年間、副主題に～基礎・基本の定着をめざして～を掲げ研究してきた。その結果、標準学力検査の結果の向上などに一定の成果を見ることができた。

今年度は、研究主題を設定するにあたり、本校生徒の実態を教職員で協議した結果、コミュニケーション能力や自己表現力を伸ばしていく必要があると考えた。そのために、今年度は各教科・領域において生徒同士が関わりあう場面を設定することを申し合わせている。そして、この『関わり合い』は、【人間関係形成・社会形成能力】の獲得につながっていくものとする。

各教科・領域との関連

【人間関係形成・社会形成能力】

学習で身に付けた力を社会生活で生かすには、他者との関わり合いの中で自己表現することが不可欠である。前述のように、本校では授業に生徒どうしの関わり合いの場面を意図的に設定している。また、道徳・学級活動においては自己の生き方、あり方を考えるだけでなく、AFPYやGWTを取り入れ、人間関係づくりを意識した活動を展開している。



【自己理解・自己管理能力】

「自己管理能力」に関しては、基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が各学年に見られ、結果として全体の動きがルーズになっている面が見られる。今年度は、あいさつをはじめ、場に応じた言動をすること、忘れ物をしないこと、提出物の期限を守る（遅れてもやり遂げる）こと、持ち物の管理をすること、授業の開始時刻に遅れないこと、など「当たり前のことを当たり前に行えるようにさせる。」を全教職員で取り組んでいる。

なお、これは後述の小中合同研修でも共通テーマとして取り組んでいることでもある。

【課題対応能力】

○授業の『ねらい』『ねらいの到達度の確認』を明確にする。

今年度の授業づくりでは、「関わり合いの場面」と合わせて「ねらいの明確化」「確認」を重点項目としている。これにより、生徒は授業の内容を把握して学習するだけでなく、現実の課題においても道筋を立て、確認しながら取り組むという流れを身に付けることにもつながっていくと考える。

○学校行事で生徒の主体性を育てる。

運動会や文化祭における生徒の実行委員会を効果的に機能させるための支援を行う。生徒が主体的に取り組むことで、課題を乗り越えた達成感や自己有用感を味わい、将来直面する生活や業務上の課題にも主体的に取り組もうとする力につながっていくものとする。



【キャリアプランニング能力】

○『小野っ子学習』で地域社会を知り、社会参画の意識を高める。（1年生）

地域社会では、それぞれが役割を担って社会を形成していることを理解するとともに、将来の社会参画への意識を高める。

○『職場体験学習』で将来へのイメージをもつ。（2年生）

事業所での実習や事前学習を通じて、将来社会の一員として生きる自己のイメージを明確にする。

○『進路学習』で希望実現のための道筋を立てる。（3年生）

将来の希望を実現するために、必要な進路および自己のあり方について考察し、中学校卒業後の具体的な進路を決定する。



○『その道のプロ』に学ぶ～蕎麦づくりを通じて～（2年生）

専門家の言葉や技から、生きた本物の情報を得ることにより、「生き方」「職業観」「勤労観」を直接考える機会を設ける。蕎麦打ちに使う蕎麦粉も、自分たちの手で栽培して収穫したものを使うことにより、達成感を味わい、職業と社会との関わりへの理解を深めるという意味でも、意義深いものとなっている。



小中合同研修会

本校では小野小学校との小中合同研修会を毎年実施している。今年度は、第1回の研修会において、「小中学校9ヵ年でつけたい力」について研修することを確認している。

具体的には、8月の第2回合同研修会において「学習準備」「学習規律」に関して、発達段階に応じた課題を小中学校教員および学校運営協議会委員で協議し、2学期以降の実践につなげている。



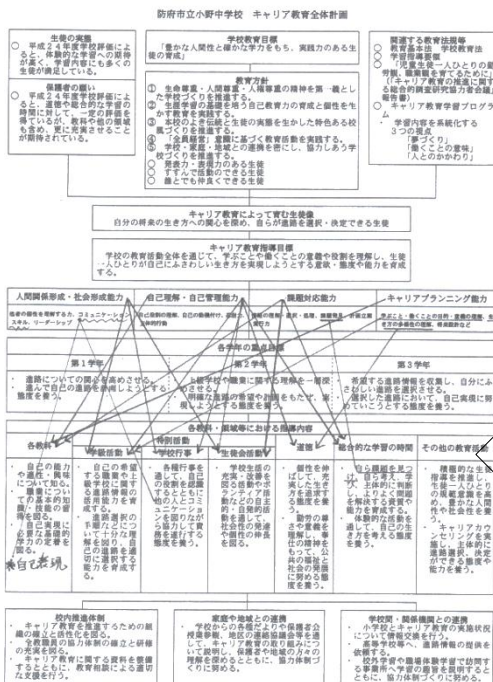
成果と課題

「学習準備」「学習規律」「課題の提出」に関しては、全体的な意識は高まっており、忘れ物の減少、授業前の黙想の徹底には取組の成果が現れていると感じるが、個人差もあり、今後も継続した取組が必要である。

授業における「生徒の関わり合い」「自己表現力」に関しては、話し合い活動や教え合う活動場면을授業に積極的に取り組むことにより、班単位での意見交換などは意欲的に取り組むことができるようになってきている。しかしながら、全体の中で自己表現ができないことや、教員の発問に対する反応の少なさなど、課題は残っており、継続した取組が必要である。また、日常の場面においては、心ない言葉がけが見られるなど、学習場面と生活場面が繋がっていないことも多い。

授業の中だけでなく、日常生活における人間関係づくりの支援が必要である。

キャリア教育全体計画と各教科・領域との関連



本校では、今年度のキャリア教育の推進にあたって、左図のように、全体計画においてキャリア諸能力と各教科・領域の関連性の分析を行い、学級担任、教科担当および行事・活動の担当者で当該授業および諸活動で伸ばす力を確認しながら取り組むこととしている。